

ながおか

建設だより

第88号

令和2年1月15日発行



一般社団法人
長岡市建設業協会

長岡市三和3丁目8番地
TEL 0258(32)3206代
sikyokai@nct9.ne.jp

編集 総務委員会
印刷所 北越印刷株式会社

新年にあたって



一般社団法人

長岡市建設業協会

会長 星野 光雄

新年明けましておめでとう
ございます。謹んで新春のお
慶びを申し上げます。

近年の気象状況の変化によ
り災害が激甚化、頻発化して
いる中、日本各地で異次元の
自然災害が発生し、長岡市で
も台風一九号による浸水被害
等が発生しました。

信濃川の堤防決壊といった
大規模災害等の発生が現実味
を帯びてきた昨今、当協会と
しても、長岡地域の安全・安
心を守る「地域の守り手」と
して、これまで以上に地域社
会の発展に貢献してまいりた
いと考えております。

さて、建設業界の喫緊の課
題は、担い手確保であり、そ
の担い手不足を克服するため
にも、週休二日制の実現とい
った長時間労働の是正や現

場で働く技術者や技能者の処
遇を改善する働き方改革が求
められています。

今後とも厳しい経営環境が
予想されますが、建設業の魅
力向上と持続性の確保に向け
て、長岡市をはじめ関係団体
と一丸となり「地域力の強化」
に取り組んでまいりますので、
皆様のご支援とご協力をよろ
しくお願い申し上げます。
結びに皆様のますますのご
発展とご多幸を心から祈念い
たしまして、ごあいさつとい
たします。



新国立競技場〈写真撮影 令和元年11月12日：総務委員会 田中祐紀彦氏〉

新年のご挨拶



長岡市長

磯田達伸

明けましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

長岡市建設業協会の皆様におかれましては、日頃から、市民の安全で安心な暮らしを支えていただき、心より感謝を申し上げます。

昨年十月、長岡北スマートインターチェンジが、県内では最も短時間で利用台数三百万台に到達しました。恵まれた環境を活かし、周辺に流通産業団地の予約分譲を進めている中、分譲数を超える申し込みをいただき、県外企業を含む十五社の進出が決定しました。今後は、第三期エリアの予約分譲を開始する予定であり、働く場の創出、産業の活性化がますます期待されます。

さらに、昨年九月には、設置を検討してきた大積スマートインターチェンジ（仮称）が国による

調査箇所を選定され、事業化への大きな一歩を踏み出しました。本年は、関係機関との準備会で概略や詳細検討を行い、北陸方面からの新たな玄関口の早期設置に取り組んでまいります。

また、本年は、長岡花火を通年で体感できるシアターや地場産食材を味わえるフードコートなどを備えた新たな観光拠点「道の駅」がおか花火館」のオープンを予定しています。今夏に開催される東京オリンピック・パラリンピックを好機と捉え、長岡の魅力を全国、そして世界へ発信していきます。

近年、頻繁に発生する自然災害が全国各地で甚大な被害をもたらしており、命を守り、人と人をつなぐインフラ整備の重要性を改めて感じます。災害時の迅速な対応や、地域間の活発な連携交流へつながる道路ネットワークを形成するため、長岡市では、左岸バイパスの南北延伸など、幹線道路網の着実な整備を進めてまいりますので、引き続き、貴協会の皆様のお力添えをお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとって幸多い年となるようお祈り申し上げます。年頭のあいさつといたします。

新年のご挨拶



長岡労働基準監督署長

野田恭義

明けましておめでとうございます。長岡市建設業協会会員の皆様方におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、当署の業務運営に対しまして、御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成三十年六月に働き方改革関連法案が成立し順次施行されているところですが、本年四月一日からは中小企業に対しても「時間外労働の上限規制」（建設事業では改正法施工五年後に適用）や「正規雇用労働者と非正規雇用労働者の間の不合理な待遇差の禁止」がそれぞれ適用されます。長時間労働の解消など職場環境の改善を行うことによる「魅力ある職場づくり」は、県内で今直面している「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」による人手不足等の問題解決の糸口になると思います。

ので、「働き方改革」による魅力ある建設現場づくりにご尽力いただきますようお願いいたします。

一方、昨年の建設業における労働災害発生件数は、昨年十一月現在の速報値で、休業四日以上之死傷災害四十六件、うち死亡者一名（一昨年同期六十二件、死亡者二名）と一昨年と比べ減少したものの、依然として死亡災害が発生しているという憂慮すべき状況となっております。本年も、建設建設業において「死亡者数ゼロ」とすることが当署の最重点課題として、取り組んでまいりますので、会員事業場の皆様におかれましては、死亡災害の撲滅と死傷災害の減少に向けた取組を経営トップが自ら率先し、労使が一丸となり進めていただき、「誰もが安心して働くことのできる職場（現場）」を目指すことも重ねてお願い申し上げます。

結びに、貴会並びに会員事業場の皆様の益々の御発展を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



長岡警察署長

加藤 修

謹んで新春のお慶びを申し上げます。長岡市建設業協会の皆様からは、日ごろより警察活動各般にわたる深いご理解と多大なるご支援をいただいておりますことを心より感謝申し上げます。

昨年、長岡警察署では、オレオレ詐欺をはじめとする特殊詐欺対策や交通事故防止対策を重点とした住民の皆様身近な犯罪等の防止に取組みました。

特殊詐欺につきましては、各種対策を推進し被害防止に努めた結果、前年と比較して被害件数、被害額とも減少しました。しかし、昨年は、市役所職員等をかたり、「還付金を受け取るには、あなたのカードは古い」「新しいカードを発行する」などと電話をして、キャッシュカードを交付させる手口による被害が複数発生しました。また、「消費料金未納最終通知」などと記載されたハガキや封書の手

送付型も止むことがありますので、犯人の検挙と被害防止に向けた対策を引き続き強力に推進してまいります。

交通事故につきましては、前年に比較して発生件数、負傷者数は減少したものの、交通事故死者数が、ここ十年で最多となりました。

特に、高齢者の方が被害者にも加害者にもなる交通事故も発生しており、交通事故を抑止していくためには、より一層の高齢者対策が必要であると考えます。警察といたしましては、パトカーの赤ランプ活動や横断歩行者の保護を重点とした交通指導取締りを強化するとともに、高齢者の方を中心とした交通安全教室や反射材の直接貼付などの交通事故防止活動に取り組んでまいります。

長岡警察署では、新年を迎え決意を新たに、住民の方が安心して暮らせる安全な地域社会の実現に向け、署員一丸となり全力で取り組んでまいりますので、より一層のご理解ご支援をよろしくお願いいたします。

結びに、長岡市建設業協会の益々のご発展と会員の皆様のご多幸を祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

環境美化活動の実施

今年度の環境美化活動は、小国地域に引き続き、長岡地域で実施しました。

長岡地域では、「長岡まつり大花火大会」会場の早朝清掃活動に八月三日は三十三社八十三名、八月四日は二十社四十六名が参加しました。



会員親睦

ゴルフ大会

会員親睦ゴルフ大会が、八月二十一日（水）に会員二十四名が参加して、長岡カントリー倶楽部で開催されました。

上位入賞者は次のとおりです。

優勝 八子 悟さん

（福田組・中越支店）

準優勝 星 春夫さん

（椿建設）

三位 田辺 永茂さん

（田辺建設）

ベストグロス賞

八子 悟さん

（福田組・中越支店）



団体優勝の皆さん 〈左から：齋藤和幸さん（中越興業）、八子さん、本田浩太さん（共栄建設）、小川直樹さん（山秀）〉

会員研修旅行 宮崎

今年度の会員研修旅行は、十月十七日（木）から十九日（土）までの三日間、四十名が参加し、「青島神社・鬼の洗濯板」の見学をはじめ、「高千穂観光」と「都城島津邸」や「霧島酒造工場」などを訪ねてきました。

青島神社・鬼の洗濯板

第一日目、青い空と海、そして輝く太陽、宮崎の南国らしさを期待して訪れたが、当日は曇りで風も強い肌寒さを感じた青島。

高千穂観光（高千穂峡・高千穂神社・天安河原・天岩戸神社）

第二日目、宮崎県の観光地として人気の高千穂エリア。「神々の里」とも言われ、高千穂峡や天岩戸神社をはじめとする神話と伝説が言い伝えられているスポットが多くあることでも有名な観光地であることから、大いに期待して訪れたが、当日は大雨に見舞われ、高千穂峡の神秘のパワーを感じることができなかつたことが残念でした。

都城島津邸と霧島酒造工場

第三日目、前日とは打って変わって、南国らしい快晴の視察となりました。「都城島津邸」は、国の登録有形文化財の本宅と併設する資料館で、六百五十年にも及ぶ島津家と都城市の悠久の歴史を感じることができました。

訪問した「霧島酒造工場」は、酒造会社が「ファクトリーガーデン」として一般に開放している産業観光施設で、最新の焼酎工場を見学でき、試飲コーナーでは黒霧島をはじめ、様々な焼酎を無料で試飲してきました。また、工場の敷地内にビーチバレーボールを行うことができる「白い砂場」があり、驚きました。

このほか、日本屈指の名門コースの「フェニックスカントリーク





ラブ」で、翌日も「トム・ワトソンゴルフコース」でゴルフを満喫した会員と、宮崎県と鹿児島県の県境にある日本二百名山の一つであり、霧島連峰の第二峰である「高千穂峰」の登山を楽しんだ会員もいました。

このように、多くの体験と思い出に残る有意義な研修旅行となりました。



視察研修会

技術委員会主催の「視察研修会」は、十一月十二日（火）、三十一名が参加し、「東京オリンピック関連施設」を視察してきました。

今回の視察先は、日本で五十五年ぶりに開催されるオリンピックの競技会場として新設若しくは改築する施設の「新国立競技場」と東京ベイゾーン有明エリアの四施設です。

当日は、まず建設中の「新国立競技場」に隣接する日本青年館ホテルの十五階からほぼ完成間近な施設を眺望しました。

また、日本青年館ホテルの隣にある「日本オリンピックミュージアム」で、オリンピックについて多方面から学ぶことができました。

次に、東京ベイゾーン有明エリアに移動して、「有明テニスの森」を視察。ただし、屋外のテニスコート以外大部分が改修工事中で、外観のみの見学となりました。

さらに、徒歩で「有明体操競技場」と「有明アリーナ」を視察し



有明テニスの森

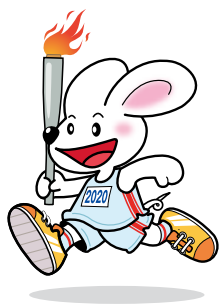


ました。

「有明体操競技場」は、約一万二千人の客席を有する大規模な競技場ですが、仮設施設（オリンピック終了後に解体）と聞いて驚きました。

「有明アリーナ」は、バレーボールと車いすバスケットボールが開催される施設で、客席一万五千席を活かし、東京の新たなスポーツ・文化発信拠点になるとのことでした。

帰り道、車窓から「東京辰巳国際水泳場」と建設中の水泳競技場となる「オリンピックアクアティクスセンター」の外観を眺めました。建設中のオリンピック施設については、今年しか視察できないということで実施しましたが、視察した施設はすべて建設中のため、内部を見学することができず、大変残念でした。



有明アリーナ



有明体操競技場

土木工事安全パトロール

良好な現場環境の維持と労働災害防止と安全管理の徹底を！

技術委員会による「新一般廃棄物最終処分場（仮称）建設工事（長岡市柿町地内）の安全パトロール」を、十月九日（水）、長岡市環境部野口部次長と環境施設課長谷川係長、長岡労働基準監督署町田安全専門監督官、建設業労働災害防止協会新潟県支部長岡分会の酒井安全指導者の皆さんから参加いただき実施しました。

当日は澄み切った秋空の下、大型クレーンが四台ほど稼働している処分場の建設工事現場へ、協会の会員四十六名で向かいました。

工事現場では、重機作業計画や仮設足場の点検記録票などを安全看板に開示し、工事関係者への周知の徹底や、狭い道を大型車が搬入する際に一般車両向けに予告看板を掲示するなど、安全に配慮した工事運営がなされていました。

また、長岡建設会館での指導会

においては、記録的な猛暑の中、作業員の熱中症対策をどのように実践しているか、具体的な取り組み事例を交えながら意見交換が行われました。



考える力

（株）西栄建設 西脇 宏

「ICTる？」最近CM広告で

見かけたキャッチコピーです。今の社会は急激なスピードで変化しています。これも情報化社会が発達した結果なのでしょう。便利になることは良いことですし、ITの発展に対しての否定的な感情はありません。ただ、便利になりすぎて考えることを止めてしまつてはいませんか。考える力はコンピュータにも勝る力だと思います。どんなに優れたコンピュータもプログラムした以上のことは出来ません。想定外の事が起きた時にコンピュータに何ができるのでしょうか。

最近、子どもに勉強を教える機会が多くなり、わからないことは極力自分で調べるように促しています。今はインターネットという便利なツールがあるので、比較的簡単に調べることができます。また、文字を打つこともなく話しかけるだけで結果を得ることもできます。簡単だからこそ結果を得る

ためにどうすればいいのか、もつとこうすれば…という思考錯誤する必要も無くなります。これでは考えることを止めてしまうのも無理はありません。

しかし、ネット上にある多くの情報には間違つた情報も溢れています。多くの情報から正しいものを見抜き、どのように動いていかなければならないかをしっかりと考えることと、最良の決断に繋げるための知識をどれだけ持つていくのが重要だと思っています。

知識は経験や勉強することで得られるものです。わたしの父も未だに本や新聞等をよく読み、常に勉強している姿を見ます。結果、多くの知識を持つていますし、色々な角度から物事を視て、様々な事を考えているように感じます。

また、経験と大げさに書きましたが、これは色んなモノに触れるというだけで良いと思います。どんな物事にも様々なヒントが散りばめられていると思うので、子どもにも過度でない範囲であればと、ゲームや漫画を読むことや、映画もたくさん観させるようにしています。こうした知識や経験が考える力を育て、考えることで色々な

気付きを得ることができるようではないでしょうか。

最近もちよつとしたことから仕事に繋がる気付きを得ました。わたしは映画が好きでよく観るのですが、「映画の構造分析」の著者である内田樹さんという方が書かれていたブログに、定型的なパニック映画に出てくる登場人物は、政治家やセレブ、または著名人といった所謂、「今の世の中で良い思いをしている人」たちと、典型的な「一般人」と、普段は変人扱いされるも、ある一定の領域について「プロフェッショナルな人」に分類される。大抵の場合、危機的状況になると能力があると思われていた「今の世の中で良い思いをしている人」たちが次々と脱落し、最後は意外にも、普段は変人扱いされる「プロフェッショナルな人」が非常時に対応する能力を発揮して活躍する話に、どんな映画も全部そうなっていると断言をしています。その意見に納得しつつ、その「プロフェッショナルな人」とはわたしたちの業界ではどのような人に該当するのかを考えてみました。危機的状況に陥った時に生き残り、世間の役に立つフォロワー

とは、一言でいえば『技術者』であると思います。この技術者は与えられた環境で、手持ちの資源や知識を用いて、自分には何ができるかを言える人であり、行動できる人のこと。どうしていいかわからなくなる人ではないということ。

わたしたち建設業は技術者集団です。災害があつた際には、持ちうる技能を発揮し、どのように切り拓いていくかの術を駆使して、率先して復旧に携わり少しでも早く地域の為に貢献しなければなりません。人材不足を改善する一手としてICTも良いと思います。しかし、このままだと技術の継承はどうなっていくのでしょうか。想定外の事が起きた時にわたしたちに何ができるのでしょうか。もつともつと考えないと。どんなにITが発展しようとも、それを使うのは人なのだから。

最後に、考えることよりももっと大事なことがありました。建設業にとって何よりも大事なことは安全第一です。

それでは皆さん、ご安全に。